

## 構造改革評価報告書 5 医療制度改革

内閣府

### はじめに

2001年6月の「経済財政運営及び経済社会の構造改革に関する基本方針」(骨太の方針)以降、政府は5年にわたって構造改革の取組みを続けている。

この中で、2003年11月に創設された「構造改革評価報告書」は、国民に改革の進捗と効果を明らかにし、説明責任を果たす、改革の「宣言」「実行」「評価」(Plan-Do-Check-Action)のサイクルの中で、次の改革につながる評価を行う役割を担っている。

第1回は企業・雇用面での改革、第2回は歳出改革、第3回はIT、第4回は金融・企業再生をテーマとして報告書を作成し、経済財政諮問会議に報告・公表してきた。

第5回となる本報告書では、「医療制度改革」をテーマとして取り上げている。

医療保険制度については、2003年3月に「医療制度改革の基本方針」が閣議決定され、さらに、2005年6月に閣議決定された「骨太の方針2005」においても、「医療費適正化の実質的な成果を目指す政策目標を設定し、達成のための必要な措置を講ずる」とされた。その後、2005年12月に政府・与党医療改革協議会でとりまとめられた「医療制度改革大綱」により今後の基本方針が策定された。

本報告書は、過去に実施されてきた医療制度改革における医療費適正化に関する様々な政策の効果を定量的に分析しながら政策効果の検証を行い、今後の構造改革の具体的な取組みに資することを目的としている。

なお、改革の評価を行うにあたっては、行政内部だけではなく、外部からの評価が重要である。このため、専門的な知見を有する外部の有識者から成るタスクフォースを設置し、これまでの改革の評価や今後の課題について、様々な意見をいただいた。

#### (タスクフォース委員)

【座長】	黒田 昌裕	内閣府経済社会総合研究所長
	井伊 雅子	一橋大学大学院 国際・公共政策大学院 教授
	池上 直己	慶應義塾大学医学部 教授
	岩本 康志	東京大学大学院経済学研究科 教授
	川淵 孝一	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 教授
	松田 晋哉	産業医科大学医学部 教授

(五十音順)